



日中企業連携PJ 2015年度・活動報告

2016年12月
日中企業連携PJ



日中企業連携PJのミッション

- ①年1回開催する連携会議を通じ、日中の企業間で特定テーマにつき情報／意見交換を行うと共に、その内容を会員に伝える。
- ②中国のパートナーである
 - ・中国専利保護協会 (PPAC)
 - ・広東省知識産権局／広東省知識産権研究会
 - ・上海市知識産権局／上海市知識産権服務中心 (SSIP)との強い繋がりを、継続して維持する。





中国側のパートナー

中国專利保護協會



王 会長

広東省知的産権研究会



郑常務副理事長





日本側メンバー(写真:北京会議全体写真)



竹本 PJリーダー
来住 JIPA担当役員
西尾 JIPA事務局長
海野 人材育成グループ

◆テーマ1

*上野智行(キヤノン)
今西芳明(日立)
近江 恵(NTT)
陳 莉莉(東レ)

*テーマリーダー

◆テーマ2

*槻尾泰信(パナソニック)
椿 正俊(富士通)
永塚広明(リコー)
辻 俊昭(JFEエンジニアリング)





日中企業連携会議のテーマ

年度	北京	上海	広州(2011～)
2005	上海フォーラム 「日中企業連携と知的財産」、「国際間技術提携」		
		「人の管理」「情報の管理」	
2006	「管理体制」、「出願戦略」、「自社の権利活用」、「他社権利対策」	「産学連携のあり方」、 「大学と企業との契約の留意点」	
2007	「インセンティブ」、「技術管理」	「ブランド管理」、「技術管理」	
2008	「戦略的な特許網の構築」、「企業内での知財教育活動」		
2009	「権利取得」、「権利活用」		
2010	「職務発明と発明評価・報奨」、「知的財産権の活用」		
2011	「人材育成・知財教育」、「知的財産権の活用」		
2012	「出願・権利化」、「権利の管理と有効活用」 ※上海は中止		
2013	「出願戦略と戦略遂行のための対策」、「特許侵害回避と対応」 ※北京は中止		
2014	「グローバル事業におけるIPリスク対応」、「事業活動におけるIP活用戦略」 ※上海は2015年10月に東京で開催		
2015	テーマ1:「ビジネスを守るための知財戦略」 テーマ2:「戦略を支えるための知財組織体制」		





日中・企業連携会議の歴史 ～2012年度～

広州



グループディスカッション



全体討議

成都(PPAC地方開催)



出願大国となった中国の企業が特に関心を抱いている「出願・権利化」および「権利取得後の管理と活用」というテーマを取り上げて、日中双方の企業からのプレゼンと活発なディスカッションを行いました。
2012年度上海会議は中止。





日中・企業連携会議の歴史 ～2013年度～

上海



特許出願戦略グループ



侵害回避・対応グループ

広州



グループディスカッション

日中双方が高い関心を持っている「特許出願戦略」と「特許侵害回避と対応」のテーマにて、プレゼンとディスカッションを行った。両テーマとも、日中双方から質問が相次ぎ、知財意識の向上やディスカッションのレベルアップを感じた。2013年度北京会議は中止。





日中・企業連携会議の歴史 ～2014年度～

西安(PPAC地方開催)



テーマ1: グローバル事業におけるIPリスク



テーマ2: 事業活動におけるIP活用戦略

広州

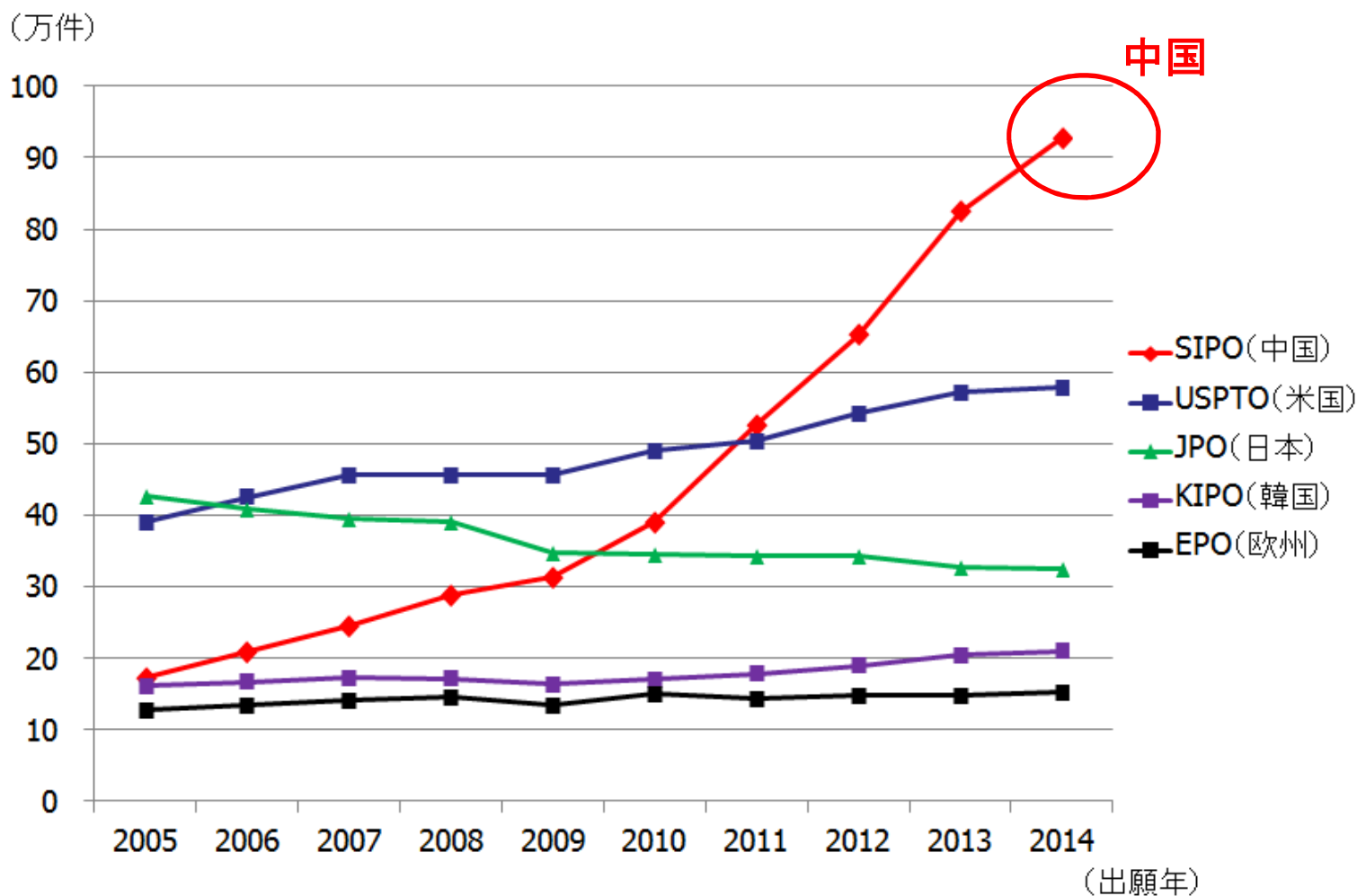


午前「グローバル事業におけるIPリスク対応」
午後「事業活動におけるIP活用戦略」
について、プレゼンとグループ討議。
会場からも多くの質問が寄せられ、極めて
活発なディスカッションを行うことができた。
上海は2015年10月に東京で開催。





五大特許庁における特許出願状況





PCT出願件数ランキング

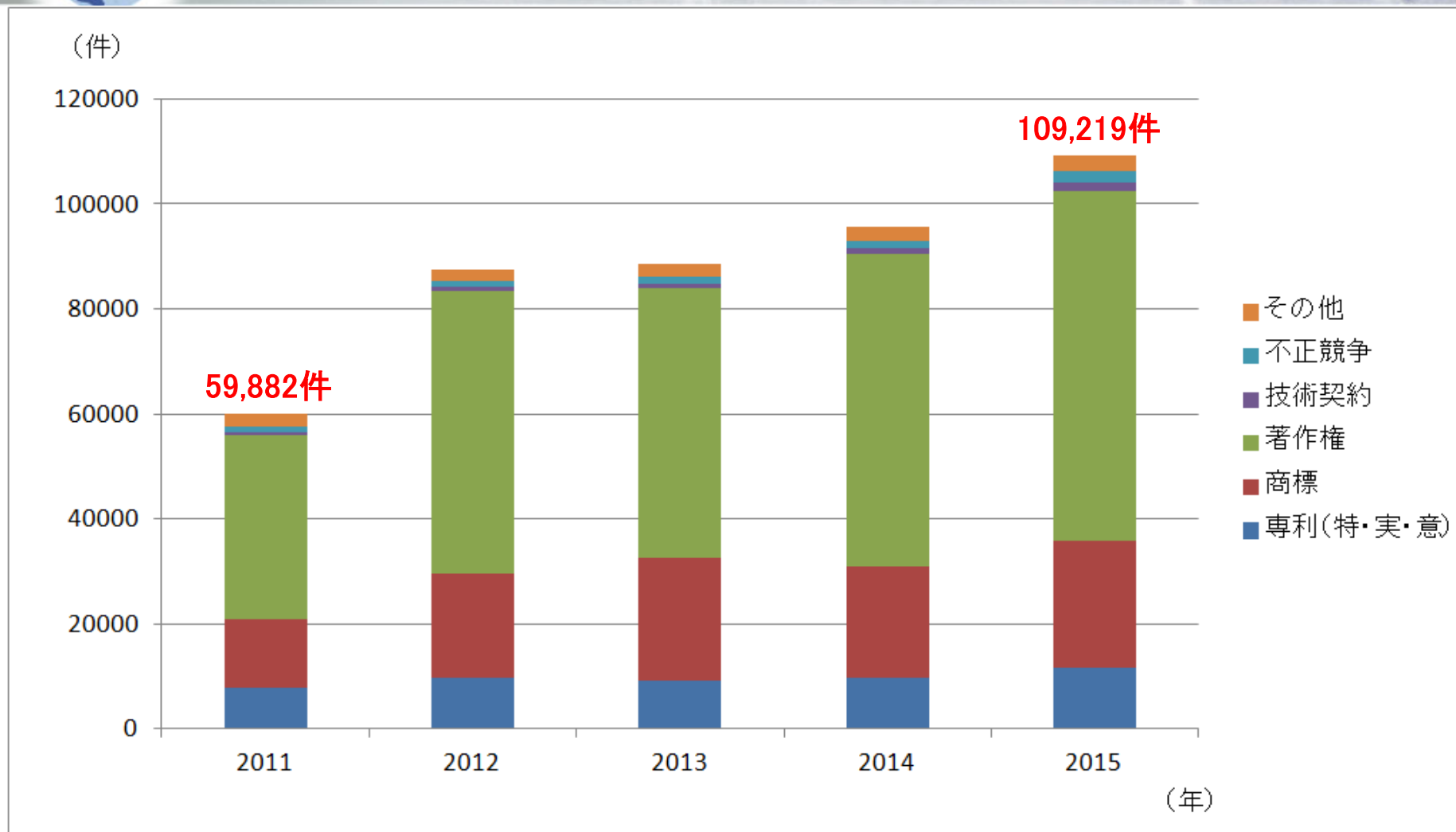
順位	2005	2010	2014	2015
1	PHILIPS(NL) 2,492	PANASONIC(JP) 2,154	HUAWEI(CN) 3,442	HUAWEI(CN) 3,882
2	MATSUSHITA(JP) 2,022	ZTE(CN) 1,863	QUALCOMM(US) 2,409	QUALCOMM(US) 2,442
3	SIEMENS(DE) 1,399	QUALCOMM(US) 1,677	ZTE(CN) 2,179	ZTE(CN) 2,155
4	NOKIA(FI) 898	HUAWEI(CN) 1,528	PANASONIC(JP) 1,682	SAMSUNG(KR) 1,683
5	BOSCH(DE) 843	PHILIPS(NL) 1,435	mitsubishi(JP) 1,593	mitsubishi(JP) 1,593

出典: WIPO





中国知財訴訟状況



(注): 中国における知的財産権民事訴訟受理件数(一審)





中国の変化(2005年から2015年)

- ✓ 「Give & Give」から「Give & Take」へ
- ✓ 国家が知財活動を強力に推進
- ✓ 出願管理、棚卸への意識
- ✓ 権利活用、売買、譲渡の話題も
- ✓ 受身でなく能動の知財へ
- ✓ 標準化との関係にも興味
- ✓ 女性の進出(知財関係者に女性比率が高い)





タイムスケジュール(広州会議)

時間	内容
9:00-9:20	開会の挨拶 広東省知識産権研究会 常務副理事長 郑良生 在広州日本国総領事館 領事 田中朝哉 日本知的財産協会 前理事長 竹本一志
9:20-10:00	テーマ1 日方企業(4社)発表
10:00-10:30	テーマ1 発表者間質疑応答
10:30-10:50	休憩
10:50-11:30	テーマ1 中方企業(4社)発表
11:30-12:00	テーマ1 発表者間質疑応答
12:00-12:30	テーマ1 会場全体質疑応答
12:30-14:00	昼食休憩
14:00-17:10	テーマ2 (テーマ1と同スケジュール)
17:10-17:20	閉会の挨拶 日本知的財産協会 事務局長 西尾信彦 広東省知識産権研究会 常務副秘書長 黄玉霞
18:00-20:00	交流会



2015年度 上海・企業連携会議

日時:2015年10月26日 場所:東京(JIPA東京事務所)

テーマ	中方企業	日方企業
グローバル事業 におけるIPリスク	药明康德新药开发有限公司<医薬品開発委託> 上海海鐳激光科技有限公司<レーザ機器>	東レ(皆川量之) キヤノン(上野智行) 富士通(椿正俊)
事業活動における IP活用戦略	上海汽轮机厂有限公司 <ガスタービン> 上海宏曲电子科技有限公司<日用品、機械>	パナソニック(槻尾泰信) ソニー(阪田瞬) リコー(永塚広明)



2015年度 上海・企業連携会議

テーマ1: グローバル事業におけるIPリスク <日方発表>



- 東レ
技術開発における現地法人の活用の取り組みについて発表した。
- キヤノン
第三者特許の徹底回避と、クロスライセンスによるリスク低減やNPE対抗の取り組みについて発表した。
- 富士通
商標のリスク回避の取り組み、および、適切な権利行使(商標権侵害対応、冒認出願/模倣品対応、不正ドメインの対応)によるリスク排除の取り組みについて発表した。

参加した上海の企業が比較的、中小企業であったことから、日本の大企業がビジネスにおいてどのように知財を活用しているのか等、多様な質問がなされた。また、上海知識産権局の徐部長より中国における商標制度についての紹介もあり、日本企業も大変参考になる情報であった。





2015年度 上海・企業連携会議

テーマ1: グローバル事業におけるIPリスク <中方発表>



■ 药明康德新药开发有限公司<医薬品開発委託>
営業秘密の保護について、クライアント別に専門のチームを設けること、チーム間での情報共有を禁止すること等により対応しているとの発表がされた。



■ 上海海鐳激光科技有限公司<レーザ機器>
專利リスクの対応、第三者特許調査等の取組みや、政府がPCT出願を推奨していることからPCT出願を積極的に利用していることについて発表がされた。

営業秘密管理の体制、專利無効審判の実例など興味深いものが多かった。特に、営業秘密管理については日本企業も大変興味を持っており、具体的な管理方法など詳細な内容について議論がなされた。



2015年度 上海・企業連携会議

テーマ2: 事業活動におけるIP活用戦略 <日方発表>



■ パナソニック

競合他社に対する知財バランス向上の取り組みの結果、企業連携の中で知財が高く評価された事例について発表した。

■ ソニー

標準化とパテントプールについて、仕組みとして成功は見られるが、一方で課題も垣間見えてきたことを具体事例を交えて発表した。

■ リコー

市場、事業のライフサイクル、競合状況を考慮した、クロスライセンス戦略について発表した。

パテントプールの成功事例、パテントプールに加入した際に享受できるメリット、実際のビジネスにおいて知財問題が発生したときの対応方法など、中国側からは具体的、実務的な内容に踏み込んだ質問がなされた。



2015年度 上海・企業連携会議

テーマ2: 事業活動におけるIP活用戦略 <中方発表>



- 上海汽轮机厂有限公司<ガスタービン>
知財委員会の設置、知財管理マニュアルの作成、
報奨制度の制定など社内の知財体制について
が発表された。



- 上海宏曲电子科技有限公司<日用品、機械>
登録時期を考慮した権利化戦略、外国における
出願戦略など自社の知財戦略について発表
がされた。

中国における模倣品対策、報奨制度など、日本企業も興味のある内容の発表があり、質疑でも、具体的な内容に関して活発な議論が行われた。





2015年度 北京・企業連携会議

日時:2016年3月11日 場所:重慶(重庆世紀金源大酒店)

テーマ	中方企業	日方企業
ビジネスを守るための知財戦略	太极实业(集团) [Taiji] 紫光国际化工 [CUC] 重庆润泽医药 [Ruzer]	キヤノン(上野智行) NTT(近江 恵) 日立(今西芳明) 東レ(陳 莉莉)
戦略を支えるための知財組織体制	力帆实业(集团) [LIFAN] 隆鑫通用动力 [LONCIN] 重庆机电 [CQME]	富士通(椿 正俊) リコー(永塚広明) JFEエンジニアリング(辻 俊昭) パナソニック(槻尾泰信)





2015年度 北京・企業連携会議

テーマ1: ビジネスを守るための知財戦略 <日方発表>



■ キヤノン

環境変化に対応する知財戦略として、事業サイクルを守るための知財活用方針を発表した。また、PAE対策の事例として、LOT (License on Transfer) を説明した。

■ NTT

NTTブランドはじめ、様々な商標の権利化戦略と保護施策について発表した。

■ 日立

意匠の権利化戦略と保護施策について。特に画面意匠を活用して事業を保護した具体事例を発表した。

■ 東レ

中国における知財戦略として、現地法人を活用した権利化や現地スタッフ育成、現地会社の知財制度の整備について発表した。

日本企業からの発表が、特許、意匠、商標に関する実務的な内容が中心であったことから、質疑では、ビジネスとの関係の中でどのように活用されているのか、そのためにどのように組織的な取組をしているのか等、活発な議論が行われた。





2015年度 北京・企業連携会議

テーマ1: ビジネスを守るための知財戦略 <中方発表>



■ Taiji (医薬)

市場を中心に知財マネジメントの体制を構築し、知財の保護、管理、活用は全て市場を中心に考えているとの発表がされた。

■ CUC (化学)

自社が優位性をもっている製品は、コア特許、重要特許、一般特許と分類し、各々1:10:100のポートフォリオとなることを目標にしているとの発表がされた。

■ Ruzer (医薬)

社長直下で知財重視の経営を行なっていること、専利分析により、販売戦略、業界内相互関係の分析、新たな製品需要の調査を行っていることについて発表がされた。

知財をビジネスに広く活用することを意識した知財マネジメント体制を構築しており、日本企業にとって興味深い発表内容であった。質疑においても、一般論を超えた踏み込んだ議論が活発に行われた。



2015年度 北京・企業連携会議

テーマ2: 戦略を支えるための知財組織体制 <日方発表>



■富士通

知財部門の組織とそのファンクションの概略説明及び特許開放による中小企業・地域貢献について発表した。

■リコー

パテントクリアランスの組織面でのマネジメントと時間軸でのマネジメントについて発表した。

■JFEエンジニアリング

日本企業の職務発明制度、営業秘密の管理について発表した。

■パナソニック

技術者向けの研修体系について。特に、知財情報分析を通じて事業に勝つためのシナリオを作る教育プログラムについて発表した。

質疑では、特許調査の具体的な内容や流れ、特許調査での外部リソースの活用方法等、実務を進めるうえでの課題の議論から、自社のイノベーションを促進するという視点からの発明者へのインセンティブの決め方などの制度的な内容まで幅広い議論された。





2015年度 北京・企業連携会議

テーマ2: 戦略を支えるための知財組織体制 <中方発表>



■CQME(機械)

最近民営化した企業で、地方政府とも連携しながら知財活動を活性化知財体制を整備中であり、企業買収においても知財を強く意識しているとの発表がされた。

■LIFAN(バイク、自動車)

他社知財を尊重しており、「一票否決」により、知財リスクについて、一人でも否決すればプロジェクトは中止するなど、徹底した取り組みを行なっているとの発表がされた。

■LONCIN(発電設備、農機等)

専利配置戦略として、数の追求はせずに資源の最適化を図っており、権利化の80%は将来性のある研究開発に振り向けているとの発表がされた。

企業内部の知財体制として、専利配置の考え方、クリアランスの進め方、技術部門と知財部門の役割分担など、発表者間の質疑に加え、会場からも活発に質問が寄せられ、このテーマに対する関心の高さが伺われた。





2015年度 広州・企業連携会議

日時:2016年3月14日 場所:広州(広東大廈三樓国際会議庁)

テーマ	中方企業	日方企業
ビジネスを守るための知財戦略	中兴通讯[ZTE] 华星光电[CSOT] 格力电器[GREE] 华进联合专利商标代理 [ACIP]	キヤノン(上野智行) NTT(近江 恵) 日立(今西芳明) 東レ(陳 莉莉)
戦略を支えるための知財組織体制	迈瑞生物[MINDRAY] 宇龙计算机[COOLPAD] 白云山和记黄埔中药[HWI] 朗科科技[NETAC]	富士通(椿 正俊) リコー(永塚広明) JFEエンジニアリング(辻 俊昭) パナソニック(槻尾泰信)





2015年度 広州・企業連携会議

テーマ1: ビジネスを守るための知財戦略 <中方発表>



■ ZTE (情報通信)

知財戦略を知財部門の最重要業務と位置付け、市場環境/技術環境/法的環境を常に注視しているとの発表がされた。

■ CSOT (ディスプレイ)

2009年創業の若い企業だが、訴訟の多い技術分野のため、自社出願と特許購入で事業を保護しているとの発表がされた。

■ GREE (空調)

会長直下の組織で知財を統括的に管理していること、出願の奨励のために報奨制度を充実させていることが発表された。

■ ACIP (商標代理人事務所)

中国における商標の取得戦略と商標の保護について事例を交えた発表がされた。

質疑では、ビジネスを守るための知財戦略について、PAEリスク対策や、ノウハウ保護のマネジメント、特許外部調達の具体方法など、実務的な観点からの議論が活発になされた。





2015年度 広州・企業連携会議

テーマ2: 戦略を支えるための知財組織体制 <中方発表>



■ MINDRAY (医療機器)

営業秘密の管理は、情報のみならず、人の入退出管理やコア技術の担当を複数名にするなど徹底した人の管理を行っていることが発表された。

■ COOLPAD (携帯端末)

社長直轄の知財組織とし、知財活動を経営の各プロセスに浸透させ、リスク管理を徹底しているとの発表がされた。

■ HWI (漢方薬)

調剤は行政保護の対象であるためにノウハウ保護が中心であること、また、パッケージは意匠で保護しているとの発表がされた。

■ NETAC (半導体)

専利(特許)の積極的な活用と、知財は支援部門ではなく、収益を上げる部門であるとの発表がされた。

営業秘密管理における人の管理や文書管理について、会場からの質問が相次ぎ、日本企業も学ぶべき点が多かった。





2015年度 広州・企業連携会議





成功の鍵

- ◆ 通訳・周さん、鄭さん
(会議を成功に導く重要な鍵の一つ)



昨年に引き続きお世話になりました。
今回は両会議ともに同時通訳



ご清聴有難うございました

～世界から期待され、世界をリードするJIPA～



一般社団法人日本知的財産協会

